

## 第五幕

### 第一場

[アドリオ、カシーロ、エラクリオがそれぞれ一方の手にたいまつを、他方の手に剣を掲げて別々の場所より登場。完全な闇ではないが、劇場は暗くなっている。]

アドリオ

息子よ、お前達なのか？

エラクリオ

息子でなくして

誰でありえるでしょう？ 1360

その勇はいかなる恐れも知らず、  
宮殿をこのように調べ歩くものとは。  
呼吸する空気よりも尊い  
父上の命をお守りに上がったのです。

カシーロ

タタール人どもは逃げました。この手に 1365  
かかって我が足元に崩折れた敵によれば、  
自分の軍勢に置き去りにされた  
セリンはこの宮殿の内にある  
神殿へと  
身を隠したとのこと。

エラクリオ

どうぞお下がりになって 1370

しばしご休息ください。逃げ出すことは  
とても出来ますまい。すぐにでも  
彼奴の首をお目にかけて入れます。

カシーロ

不幸にして恥ずべき美女の首とともに。

アドリオ

自らこの剣で我が屈辱を雪ぎたいのだ。 1375  
古き時代の熱い思いが目を覚ますのを感じるぞ。  
在りし日にタタール人が知った  
この腕の力強さをまだ失っていないことを  
見せてやるのだ。尊き戦争において  
この腕は奴らの大地に振り下ろされる鞭の痛打であったのだから。 1380  
たとえ命を落とそうとも、  
恥ずべき生涯を送らずに  
誉れある道の終わりを求めたなら、

この生はよく報われたといえよう。

エラクリオ  
全アジアの国々が一堂に会する 1385  
戦争であってみれば  
愛する父上よ、全軍の指揮を御手に  
委ねてしかるべきでしょう。このような些事  
お心を煩わせるにはあたりませぬ。

カシーロ

腰抜けの

タートル軍は疾うに、尻尾を巻いて逃げ出しました。 1390  
ただセリンだけがわずかな手勢とともに  
大胆にして恐るべき抵抗を続けています。  
奴の逃げ込んだ場所は  
すでに包囲させてあります。  
このような諍いに父上の 1395  
大いなる勇氣は勿体無うございます。  
年若く未熟な私ですが、敵もまた年若きもの、  
私一人で十分といえます。生死にかかわらず、  
目の前に引きずり出してまいります。

アドリオ

争いの場に

お前達を残し、私は参加せず 1400  
模範を示すでもなければ指揮を取るでもないとは、  
奇妙なこと、決心がつかぬ。私も行こう。  
お前達を率いて、神殿を破壊しよう。  
私に倣え、続くがよい。

エラクリオ

父上、その模範は

このようにつまらぬことには必要ありませぬ。 1405  
その身のご無事こそ私達皆の関心事。

カシーロ

行こう、エラクリオ。

エラクリオ

そうしよう、カシーロ。

アドリオ

お前達の望みを入れて下がるとしよう。  
聞くがいい。圧制者と私の娘を連れてくるのだ。

彼奴は殺し、娘は生かしたまま。恋人の亡骸を 1410  
目にすれば悲嘆もし、後悔もしよう。  
かつて愛を見しものに嫌悪を覚えもしよう。  
争いのさなか、流れ弾が  
あれの命を奪うことの無きよう、留意せよ。  
お前達に言っておくが、ソラーヤは生かしてやれ。 1415  
ああ、私は悔い改めたあの子の姿を  
目にせずには死にたくない。  
それが叶うなら、その時は快く死ねるだろう。

## 第二場 [前場の人物、チェルケスの二人の将校]

将校一

タタール人は一人も残ってはおりません。  
皆方々より手を尽くして逃げ出しました。 1420  
街の城門まで逃げおおせたもの達は  
高貴なるチェルケス人の手によって  
間違いなく死を与えられるでしょう。  
老いも若きも皆死にました。  
抽選で選ばれた不幸な  
女達は皆救い出されました。 1425

将校二

血にまみれてセリンは愚かにも抵抗を試みましたが、  
我々の手に落ちるのは当然でありました。  
というのも奴の忠臣が  
示した扉より我等の軍勢が 1430  
突入したためです。セリンはソラーヤ様を  
慰めているところでした。そのため  
攻撃に備えることが出来ませんでした。  
丸腰となって投降するほかなかったのです。

アドリオ

ソラーヤはどうした？

将校二

セリンとともに 1435

軍勢に取り囲まれて無謀にも  
恋人の剣を取り、彼と一緒に  
自害されようとなさいました。私が飛び込んで  
短剣を奪い取りました。二人がやってきます。  
衛兵は二人を別々にしています。 1440

アドリオ

その姿を目にして耐えられるだろうか。  
セリンを捕らえたことは私にとって  
大きな勝利だ。すぐさま死ぬがいい。  
ソラーヤに対しては、分別を無くした怒りが 1445  
苛烈になってはならない。あれは私の娘。  
かつては私の安らぎであり、喜びであったもの……。  
だが何を言っているのだろう。娘であるという  
口実などなしに死ぬがよい……。この血を引いていることが  
その名誉を汚したことをより激しく苛むであろう。  
怒りに変わってしまえば、愛とは厳しいもの。 1450  
あの子は名誉に背いたのだ。私の心を動かして  
その過ちを許してやる愛情は  
裏切り者には相応しからぬ。だからといって  
私の娘でなくなるわけではないのだ……。されど  
行き過ぎた愛はその恋する胸より 1455  
名誉と血の縁を忘れさせたのだ……。ならば……。しかし  
あれは娘だ、たとえ娘として相応しくないにせよ。不名誉を  
嘆いて涙を流すにも  
私に残された余生は永くはない。悔いた娘が  
私の喜びとなってこの人生を 1460  
しばらくは支えてくれるだろう。息子達よ、  
そなた達の覇気があれを残酷に扱わぬように！  
ああ、私の涙に娘の血を交えてはならぬ。  
その罪を、我が悲しみをセリンに償わせよ  
彼らがやってくるのをこの目が見れば、 1465  
セリンに対しては怒り燃え、  
ソラーヤに対しては心ほだされて、  
高貴なる魂に相応しき  
平静を保ってはいられまい。  
力に余る事柄は避けて通るのが 1470  
賢明というもの。チェルケス人よ、私は下がろう。  
この名誉と愛を今、そなた達の手に乗せよう。  
この痛みが導くままに、不確かな歩みに任せて、  
私は下がるとしよう。 [去る]

エラクリオ

生死は問わず  
タタール人をお目にかけてみましょう。

第三場

[エラクリオ、カシーロ、チェルケスの将校二人]

カシーロ

兵が一人 1475

父上のお供をせよ。尊き  
その身をお守りせよ。  
唇は黙し、剣が語るべき時が来た。  
衛兵よ、一刻も早く捕らわれの  
セリンとその恋人を連れてまいれ。 1480

エラクリオ  
たいまつはこの部屋に置いてゆけ、  
我が復讐の黒き熱情に  
闇がその悲しみを重ねないために。  
日はすでにその光を私達に拒んでいる。  
まぎれもない、かかる侮辱の 1485  
絆を断つ、この胸に恐れをなしたのだ。  
セリンよ、死ぬがいい、奴を手にかけるこの姿を凝視しながら。

カシーロ  
忘恩の姉ソラーヤも  
自分の兄弟が手ずから  
あの獣を殺すのを見るがいい。 1490  
闇はその罪の恐ろしさを、  
我が怒りのすさまじさを隠してはならぬ。

第四場

[エラクリオ、カシーロ、チェルケス人]

チェルケス人  
捕らわれとなったセリンがまもなくやってまいります。

エラクリオ  
運命の逆境を奴はどう迎えたか？  
厳しさに屈したか？運命を呪ったか？ 1495  
命乞いをしたか？死は奴をおののかせたか？  
解放するよう交渉を持ちかけたか？  
尊大さを失わなかったか、それとも諦めてしまったか？

カシーロ  
抜かりなく奴を縄にかけた時  
彼の怒りは激しさを増したか、それとも消沈したか？ 1500  
ソラーヤから引き離される時（友よ  
君はこうしたすべての証人となるのだ）  
愛のために、あるいは絶望して泣いたか？  
奴の瞳に何を見た、そしてその心に？

不安に動揺していたか？  
言ってくれ、セリンはどのようなようであったのかを。 1505

## 第五場

[前場の人物、チェルケス軍に囲まれてセリン]

セリン  
この私に相応しくあったのだ。  
不幸であればあるほど落ち着いていたのだ。  
この気力、この様子に驚きを隠せないか？  
強き心がどうあるべきか、知らないか？  
カシーロよ、私の死でそれを学ぶがよい。 1510  
死は目前に迫っている。しかし私を恐怖させない。  
平穏な心持でそれを迎えるのだ。

エラクリオ  
それはなんという尊大だろう。

カシーロ  
そして何たる傲慢、  
我が怒りをさらに厳しさへと掻き立てるもの。

セリン  
傲慢でもなければ尊大にもあらず。 1515  
変わらぬ心で運命を見据えているのだ。  
なすべきを知っているというもの。  
敢えて今一度言おう、  
私は落ち着いていると。これが不幸によるものでなく、  
自らの咎によるなら、平静ではおれまい。 1520  
タタールの国のやんごとなき王子が、  
戦いに敗れて  
お前達に屈したというのなら、  
あるいは軽率な下層民に打ち負かされたというのなら、  
その不名誉はこの命で償っても足りまい。 1525  
しかしそうでない以上、この顔は  
我が心の平静をお前達に示すものだ。

エラクリオ  
その気力、セリンよ、  
それに相応しき状況であれば見事であろうに。

セリン  
ならばそれを誇示することはすまい。 1530

運命が許すなら  
言葉でなく剣を以ってそれを語ったことだろう。  
しかし剣を奪われている以上  
（裏切り者を処罰するよりも  
はるかに立派な働きをするべき剣だ） 1535  
この唇から漏れ出ずるのは  
我が気高さが心に呼び起こす熱き思いばかり。  
天が私に武器をとることを許したなら、  
いかにお前達を懲らしめたか、私の示す  
この堅固な志操からお前達は知ることになっただろう。 1540  
だが天は、それを示すべく  
武器を取ることを私に許さなかった。  
何というべきだろう？類稀なる不幸の中で  
類稀なる堅固な心を  
お前達に示す機会を与えてくださった 1545  
天に感謝するべきだろう。  
エラクリオよ、血の海に、恐怖の中に泳ぎ  
怒りにまかせて殺し、また殺されることが  
栄誉であるとお前が考えるなら、  
それは人と獣に等しき所業、 1550  
戦場でも森の中でも繰り広げられていること。  
ただ人にもみ相応しき偉業とは  
運命の浮沈を克服し  
いかなる時にも変わらぬ強き心を保つことだ。

カシーロ  
お前は死ぬのだ、セリン。

セリン  
なんと喜ばしき知らせだ！ 1555  
私を手にかけるものはどれほどこの不名誉を拭ってくれるものだろう！  
王子の人格がかくも低劣な  
手によって冒瀆されているのだから！  
死がどんなに残酷であっても  
この心を汚される以上に恐怖を抱かせるものではない。 1560

エラクリオ  
なんという威厳。その声、そのゆるぎない態度は  
我が怒りをとどめるものだ。

カシーロ  
これは私達を  
懐柔するための手管。奴が私達の名誉を  
傷つけるのを目の当たりにしたではないか？何故

復讐の手を止めるというのか？

エラクリオ

いや待て、弟よ。 1565

お前の心が獣のそれではないというなら  
しばし待つのだ。

カシーロ

エラクリオ、躊躇は

分別を欠くというものだぞ。

尊敬する王子の身柄が

奪われたことにタタール軍が気付いたなら、 1570

恐らく戻ってくるだろう、その兵士達は  
不名誉な潰走を深く恥じて・・・。

セリン

その通りだ、チェルケス人よ。私が生きていと知れば  
この身を救い出すべく、

我が軍勢は必ず戻って来よう。 1575

お前達に分別があるなら、私を殺さなくてはならない。

将校一

ソラーヤ様がおいでになります。

セリン

天よ！

なんとということだ。この末期に及んで彼女の美しき顔を  
拝する喜びを私に与えてくださるというのか？

ソラーヤ [舞台袖で]

ああ、私のセリン様！

セリン

美しきその声音！ 1580

セリンはここにいる。幸いなるときも不幸なる時も

いつも変わらず、君の恋人であり続けるセリンはここに。

ああ、君の兄弟の冷酷によって殺されようとも、どうか知っていて欲しい。

君のものとして私が死ぬことを。もし自由の身となることが出来たら

君の手から・・・。

エラクリオ

自由の身になどなるものか。 1585

[セリンを殺す]



来るがいい、ソラーヤよ、お前の汚名が  
その狂気の沙汰が、罰を受けるのを目にするがいい。

## 第六場

[前場の人物、捕らわれのソラーヤ]

ソラーヤ  
ああ！なんという光景、不幸なソラーヤよ！

エラクリオ  
死ぬがいい、セリン！ [さらに傷つける]

セリン  
そうだ、殺すがいい……。カシーロよ、  
ソラーヤに看取られながら息を引き取るこの喜びを 1590  
お前は知るまい……。ただこれだけは頼む、  
チェルケス人達よ、君達のかawaiiそうな妹にだけは  
寛大であってくれ……。その気迫が彼女に  
触れることのないように……。恨みはすべて私一人の  
心臓の上に落ちるがいい……。我が高潔な血がお前達の 1595  
厳しい怒りを満足させ……。だが彼女は生き延びさせんことを。

ソラーヤ  
生き延びて何になりましょう？セリン様が亡き後に。  
同じ刃で、エラクリオ兄様、この胸を  
裂いてくださいまし。哀れな私の恋人の  
高貴な胸を傷つけたのと同じ刃で。 1600  
早く殺してくださいまし、さあ、  
この命を奪ってくださいまし。一秒遅れれば、  
その残酷さが失われる。  
セリン様のお姿を見ただけで、この命は失われたも同じ。

カシーロ  
その不幸な口を慎め、ソラーヤよ。 1605  
名誉を汚す物言いは厳しさをさらに掻き立てる。  
私は恥ずかしいぞ、セリンの死を  
目の当たりに、恥じ入って  
しかるべきお前が更なる  
狂態を演じて、悪びれる様子もないとは。 1610

ソラーヤ  
勝手にするがいいわ。ただ今は

もし死んでしまっているのなら恋人の  
冷たき亡骸にこの涙を注がせてちょうだい。  
このソラーヤに墓までお供させてちょうだい。  
セリン様？愛する王子様、生きていらして？ 1615  
私を愛したその時から、あなたは  
不幸でいらしたの？まだ息はあって？  
一緒に明かした夜、  
私達は手に手を取って  
同時に息を引き取りたいと 1620  
幾度となく天に願ったものでした。それは叶うのでしょうか？  
喜ばしく結ばれて、私達は死ぬのでしょうか？

セリン  
私はもう・・・ さようなら・・・ 私のように・・・ 変わらぬ心を。 [死ぬ]

ソラーヤ  
私を殺してくださいまし、恋人が息を引き取ったのですから。  
ああ、天よ！私の兄弟はこの命を奪うのに 1625  
手をこまねいているのです。  
天球よ、轟音を響かせる  
稲妻を閃かせ、そのすさまじき炎で  
この胸を焼いてちょうだい。  
愛と苦しみに燃えたこの胸を。 1630

エラクリオ  
お前は妄言を口走っているのだ、ソラーヤ。

ソラーヤ  
たとえ

私とセリン様の結ばれの  
最も尊い愛を、粗野な力で  
踏みつけにする、それが  
あなた達の冷酷な性質だとして、 1635  
けれどもあの方は王子だったのです。  
尊ばれ、敬われるべき方だったのです。  
卑小な兄弟達、今一度  
この涙を私の夫に注がせてちょうだい。

カシーロ  
亡骸を片付けよ。

ソラーヤ  
ああ、どうか！衛兵達よ、あの方を私のそばに残して行って。 1640  
この正しき絆を断ちたいというのなら、

その手で短刀を振るい、  
愛を忘れぬこの胸を裂いてちょうだい。  
私はセリン様のもの・・・すべてをあの方に捧げた  
ソーラーヤから、二度にわたって命を奪うことになるのです。 1645  
ああ、このソーラーヤは逃げたりしませんわ！

カシーロ  
お前は自分の、そして家族の名誉を  
余りにも傷つけた。このひどい有様を  
目にしておれぬ。我が怒りを受けて死ぬがいい。 [ソーラーヤを傷つける]  
これがお前の愛のもたらした結果だ。 1650

ソーラーヤ  
もっと力を込めるがいいわ、カシーロ。  
エラクリオ兄様、私は喜んで死んでゆくのです。

エラクリオ  
カシーロ、私の妹であり、お前の姉だぞ。酷いことを。

ソーラーヤ  
死がこんなにも迫って来ている。  
もし私がよき恋人であったために死に値するというなら、 1655  
あなた達の姉、妹は千度の死に相応しい。  
あの方のために千度でも命を投げ出したでしょうから。  
セリ・・・、ああ愛しいセリン様、変わらぬ愛を守って、私は息絶えます。  
すでに冷たくなったあなたの亡骸と  
私の亡骸を愛が結んでくださいます。 1660  
まもなく私達の魂は  
生きていた頃のように再び結び合わされる。  
兄弟よ、あなた達を許します。名誉の力を  
私も知っているから。愛情が  
あなた達の名誉を傷つけたのなら、 1665  
この美貌は死を以ってそれを償うでしょう。  
ひどいお兄様達・・・その名誉を許しましょう・・・  
私の愛もお許しになってね・・・兄弟の手にかかって  
この運命の最期を迎えたのですから・・・。  
運命はこの天球にはじめから記されていたのです・・・ 1670  
人がそれに抗しても無駄なこと・・・  
運命の力にはかなわない、  
奔流の前のささやかな障害に過ぎないのでから・・・  
愛が罪でないならば、私は無垢のまま死に・・・  
それが罪だというなら・・・ああ、世を続べたもう天よ！ 1675  
なぜ人の心をこんなにも感じやすいものにおつくりになったのでしょうか？  
ああ、愛の力に誰が抗えましょう・・・！

エラクリオ  
美德と名誉と堅き心だ。

ソラーヤ  
堅き心・・・！名誉・・・！美德・・・！そうね、  
でも、もはや何を申しましょう・・・？恋人と共に私は死ぬのです。 1680

## 第六場

[前場の人物、アドリオ]

アドリオ  
息子達！天よ、これは何たる光景だ？

カシーロ  
ともに息絶えました。

互いの愛を口にしながら最後の息を  
吐いたのです。

エラクリオ  
この剣が  
セリンを討ちました。

アドリオ  
どのような最期を迎えたのだ？

エラクリオ  
獣の如く、  
傷つけるこの手を罵りながら。 1685

アドリオ  
それに何ということだ？私の娘を殺してしまったのか？  
お前達に言わなかつたらうか。ああ、暴君どもよ、命は  
許してやれと。なぜお前達はこんなに大きな苦しみを  
この父に与えたのだ？このような振る舞いは  
我が怒りに値するもの。 1690

カシーロ  
兄上は見逃そうとなさいました。  
私とて屠るつもりはなかつたのです。  
しかし彼女が私達を愚弄したのです。

アドリオ

どうして

あの哀れな娘がお前達を愚弄したというのだ。何を、一体その唇は何を言っているのだろうか。残酷な弟よ。ああ、私の娘よ！ 1695  
あれはお前達の暴虐の前にどうすることが出来ただろう？

エラクリオ

恋に心乱され、戯言を喚きながら  
死を望んだのです。夫の亡骸の上で  
死ぬことを求めたのです。  
その時、怒りに駆られたカシーロが 1700  
恐ろしく忌まわしいやり方で  
ソラーヤを殺したのです。

アドリオ

酷いことを。

カシーロ

父上の名誉、彼女の名誉、我が一族全体の名誉が  
彼女を罰するいかんともしがたい力を以って  
かくも厳しい復讐を私に命じたのです。 1705

アドリオ

名誉に狂ったものよ。ああ、私が  
お前の暴虐を許すなどと考えるでないぞ。  
その冷酷な舌はもはや言葉を発するでないぞ。  
ソラーヤの錯乱を申し開きとしてはならぬ。  
お前の不服従の方がよほど重大なのだ。 1710  
恐ろしい復讐の中でも、あれには  
手を出すなどお前に言わなかったか？  
彼女の中に私の似姿を敬えと。  
それなのにお前は、残忍な怪物、忘恩の弟よ、  
私に背き、自然にも逆らったのだ。 1715  
哀れな、美しき娘の亡骸を運ぶがいい。 [兵士に]  
セリン、あの愚かな若者は  
我がもてなしに礼を失し、約束を違えた。  
だからといって、私達が彼に負うべき  
尊敬にもとってよいということはないのだ。 1720  
いずれにせよ彼は王子であった、  
聖なるものとして尊敬を以って遇されねばならなかったのだ。

終

